

上三宮小学校に関する次年度以降のあり方について

【上三宮小学校の現状】

現在、上三宮小学校は、複式学級となる児童数が継続しており、さらに、表のとおり、令和2年度、新入学児童が0人、本年度についても新入学児童の入学がなかった状況にある。

学校運営上の課題や児童に与える影響が懸念されることから、喜多方市立小中学校適正規模適正配置実施計画（案）の作成と並行して別途早急に検討を進める必要があるとの考えのもと、上三宮小学校の今後のあり方について検討を行ってきました。

(上三宮小学校の児童数と学級数の推移見込)

年度	項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R2	児童数	0	3	2	4	6	11	26
	学級数		1		1		1	3
R3	児童数	0	0	4	2	4	6	16
	学級数			1		1		2
R4	児童数	3	0	0	4	2	4	13
	学級数	1				1		2
R5	児童数	6	3	0	0	4	2	15
	学級数	1	1			1		3
R6	児童数	6	6	3	0	0	4	19
	学級数	1	1				1	3
R7	児童数	3	6	6	3	0	0	18
	学級数	1	1	1				3
R8	児童数	4	3	6	6	3	0	22
	学級数	1		1		1		3

※ 上三宮町に住所はあるが、上三宮小学校ではなく他の小学校に学区外通学をしている児童数（年度の入学者）については次のとおり。（R2年度1名、R3年度3名）

※ 令和4年度以降については、現在、上三宮小学校の学区に居住している未就学児童が全員入学するものとして推計。（R3.6.3 住民基本台帳より）

【対応経過】

子どもたちにとってより望ましい学習環境を早急に整備していくことが必要であるという基本的な考えのもと、地元の意向を把握するため、小学校の保護者、上三宮小学校を学区とする未就学児の保護者、上三宮町行政区長と下記のとおり意見交換会を実施し、教育委員会として、以下の3つの（案）を提案して、意向の把握に努めてきました。

（案1）適正規模適正配置実施計画（案）で検討していく。

（案2）学校を存続させ、小規模特認校制度の導入を検討していく。

（案3）実施計画の決定を待たずに、統合を検討していく。

・意見交換会の開催状況

①上三宮小学校保護者との意見交換会

日時 令和3年2月5日（金） 参加者 保護者16名

②上三宮小学校保護者（PTA役員）との意見交換会

日時 令和3年3月8日（月） 参加者 PTA役員3名

③上三宮地区を学区とする未就学児の保護者との意見交換会

日時 令和3年3月22日（月） 参加者9名

④上三宮小学校保護者との意見交換会

日時 令和3年4月23日（金） 参加者8名

⑤上三宮地区行政区長との意見交換会

日時 令和3年6月16日（水） 参加者7名

⑥上三宮小学校の今後のあり方に関する合同意見交換会

日時 令和3年6月30日（水） 参加者12名

※ 行政区長6名、小学校保護者6名（うち未就学児の保護者である方2名）

⑦上三宮小学校の今後のあり方に関する合同意見交換会

日時 令和3年7月29日（木） 参加者8名

※ 行政区長5名、小学校保護者3名

なお、⑥の合同意見交換会以降は、市教育委員会の考え方を下記のとおり説明。

● 方向性（案）

学校を存続させ、小規模特認校制度を導入することを検討する。

● 理由

上三宮小学校については、通常学級がなく、児童がいない学年も存在し、今後もこの傾向は続くものと予測されることから、子どもたちにとってより望ましい学習環境を整備していくため。

- ・多様な教育活動を行うことにより、児童数の安定化を目指す。
- ・小規模特認校制度を導入することで、「特色ある教育活動」を推進し、小規模校のよさを最大限に活かした教育環境の整備を図っていくため。
- ・このような教育環境を望む他地区の児童、保護者の希望にも沿うことができるようにするため。

【意見交換会で出された主な意見】

意見交換会で出された、主な意見は以下のとおりである。

- ・上三宮小学校の児童のよりよい学びを保証していくこと、健全な学校運営を行うことができるように早期に対策を講じていく必要があるため。
- ・適正規模適正配置実施計画（案）の作成を待っての対応、早期の統合の検討については、対応に時間を要することが予想され、現状に対してほぼ何も対応しないと同様の結果になってしまうため。
- ・児童数の減少、配置教員数の減少等により通常の学校運営が困難となることが予想され、児童にとってよりよい学びの環境の確保が喫緊の課題であり、早急の対応が必要であるため。
- ・小規模特認校制度の導入が、現在の危機的な状況に対応する有効な方策と考えられるため。
- ・特色ある教育活動の推進によって、上三宮小学校のよさを活かすことができ、児童にとってよりよい学びの環境整備が期待されるため。
- ・複式学級解消、児童数の安定化に向け、一步を踏み出す可能性があるため。

以上の主な意見により「学校を存続させ、小規模特認校制度の導入を進めること」で、今後の上三宮小学校のあり方が決定した。

【小規模特認校制度導入の考え方】

今回の小規模特認校制度の導入については、上三宮小学校の現状を鑑み、緊急的に上三宮小学校に導入するもの。

【小規模特認校制度の概要】

- ・小規模特認校制度（案）について 別紙2 参照

【今後の予定】

- ・小規模特認校制度導入に係るスケジュール（案） 別紙3 参照